

目標達成の状況

温室効果ガス排出削減と定着化

・低炭素施設園芸モデルハウスの実証実験結果では、太陽光発電パネル、ヒートポンプ、LEDの導入により概ね80～90%のCO₂削減効果を確認し、既存資料等から田原市の菊栽培におけるヒートポンプ導入済面積やLED導入済面積から、2つの設備導入によるCO₂排出量の削減率は約2割に達した。

モデル施設視察者数

・低炭素ハウスの完成後の様々な啓発活動を実施し、アンケート回答者の累積人数は約3,100人である、首都圏等の大規模イベントの集客数等を含めると概ね年間2,000人以上の方々から情報提供・体験等を受けたと推察される。

田原市の農業農村の活性化

・田原市の平成23年度の市町村内総生産は約4千億円である。農業分野は平成21～22年度に増加し、平成22～23年度は若干減少しているが、全体は平成22～23年度にかけて約21%の成長を示す等、大幅な付加価値向上が実現された。

※市町村内総生産:市町村内に所在する産業等の活動によって新たに生み出された生産物の価値を付加価値で評価したもの。

田原産の菊の差別化、付加価値向上等による売上増加等経営指標の向上

全国、世界における知名度向上、生産物のブランド化

・「アグリビジネス創出フェア」への2回にわたる出展や、「アジア太平洋異分野融合研究国際会議」の2回にわたる支援を行い、菊のブランド等の情報発信を行った。アンケート調査結果によると、低炭素施設園芸モデルハウスによる栽培農産物について約61%が、付加価値があると判断する等、付加価値化への貢献が期待されている。

付加価値向上効果

・低炭素施設園芸モデルハウスにおける平成22～25年度における電力料金は約195万円で、売電収入は約108万円であり、電力使用料のうち、約56%を太陽光発電で賄い、ランニングコストに関しては非常に大きな削減効果を発揮した。

田原市低炭素施設園芸づくりの取り組み

費用対効果

年総効果額と総事業費に基づき、以下の式により投資効率を算定した。この結果、投資効率は1.7331となり、投資効率が非常に高くなった。今回の費用対効果分析の試行は、各項目の効果額の算定におい

て過大(農林漁業体験等効果など)推計となっている可能性があるため、精査を行っていくことが必要である。

- 総合耐用年数 (n) = 「ソフト事業」を除いた事業費 / 施設別年事業費 = 14.1864
- 還元率 = $(i \times (1+i)^n) / ((1+i)^n - 1)$ = 0.09374 ※i=0.04
- 妥当投資額 = 年総効果額 (パブリシティ効果除く) / 還元率 = 162,285千円
- 投資効率 = (妥当投資額 - 廃用損失額) / 総事業費 = 1.7331 ※廃用損失額=0

年総効果額

- ・低炭素施設園芸モデルハウスの温室効果ガス排出削減効果 28千円
- ・農林漁業体験等効果 14,626千円
- ・コミュニティ活動促進効果 558千円
- ・パブリシティ効果 13,000千円

合 計 28,212千円

総事業費

- ・低炭素施設園芸モデルハウス整備費 58,485千円
- ・低炭素施設園芸モデルハウスリフォーム費等 15,030千円
- ・ソフト事業費 20,123千円

合 計 93,638千円

場 所

低炭素施設園芸モデルハウス



低炭素施設園芸モデルハウス

〒441-3426
愛知県田原市大久保町
黒河原269

【田原市低炭素施設園芸づくり協議会構成員】

田原市、愛知みなみ農業協同組合、インシロ農芸有限会社、農業経営士協会東三河支部田原分会、東三河農林水産事務所田原農業改良普及課、田原市認定農業者連絡会、田原市青年農業士会、田原市4Hクラブ連絡協議会、株式会社サイエンス・クリエイト、国立大学法人豊橋技術科学大学

【お問合せ】

田原市低炭素施設園芸づくり協議会事務局

(田原市産業振興部農政課)

〒441-3492 愛知県田原市南番場30-1
TEL.0531-23-3517 FAX.0531-22-3817
ホームページ: <http://teitankyo-tahara.jp>